

# いわてけんとおのし しんさいぼらんていあ 岩手県遠野市の震災ボランティア

しまだみつひろ  
島田充啓

ゴールデンウィークあ いっしゅうかん いわてけん とおのしやきょう ひさいち しえんだんたい けいせい  
GW明けの一週間、岩手県の遠野社協と被災地支援団体で形成される「まころネット」  
さんか えんがんぶ おおつちちう ぼらんていあ  
に参加し、おもに沿岸部の大槌町でボランティアをしました。  
さぎょうないよう ひさいしゃ あつ にーず もと ゆがした のこ どころ か だ みちばた つ  
作業内容は被災者から集められたニーズを基に、床下に残った泥の掻き出し、道端に積もった  
へどろ ののづ ちからしごと あしゆ せいそう しゃしん ある ばむ せんじょう さまざま  
へどろの土囊詰めなどの力仕事から、足湯、清掃、写真やアルバムの洗浄など、様々なものがあ  
りました。10時頃から作業開始で、休憩を挟んで3時頃に作業は終了します。実質作業は4時  
じころ さぎょうかいし きゅうけい はさ じ さぎょう しゅうりよう じっしつ さぎょう じ  
間程ですが、消毒のために撒(石灰や、へどろ ぶんじん ま せっかい へどろ ぶんじん ま  
かんほど しょうどく ま せっかい へどろ ぶんじん ま せいせいかんきょう わる な  
間程ですが、消毒のために撒(石灰や、へどろの粉塵が舞っていることの衛生環境の悪さと、慣れ  
ない、特異な状況での緊張や気疲れで、想像以上の疲労でした。また、雨や強風で中止になること  
もあるため、なかなか作業は捗りません。



ゆがした どころだ にんていど ひと くるーぶ さぎょう  
床下の泥出しは、10人程度が一つのグループになり作業します  
が、1日1軒終わるのが限度でしたので、東北3県の17万6千もの  
にちけんお げんどう とうほくけん まんせん  
建物被害を考えると、この作業だけでも長期間になります。

あしゆ しんしん りらくす かいしょう もくてき  
足湯は、心身のリラックスとストレス解消を目的としています。  
あたたか ぬ あし ぽらんていあ て かた  
温かくしたお湯に足を付けてもらい、ボランティアが手や肩などの  
マッサージをします。その中で、避難所内ではあまりできない1対1

かいわ し ひと はな は だ  
の会話や、知らない人になら話せるおしゃべりのようなものを吐き出してもらうことができます。

その際に、ひどく足のむくんだ60代のおじさんが、建物の屋上から  
みた津波の様子や、翌日避難所に行く途中、死体の脇を念仏を  
唱えながら歩いたことを聞かせてくれました。それが今も脳裏を過ぎ  
外を見たり歩いたりすることが億劫になっているそうです。



今は眠れているし、食べられていると言いましたが、精神面での  
本格的なサポートがまだまだ足りないと感じました。

現場では、滞在日数が長いボランティアがリーダーとなり  
ボランティアの自発性が重視されました。

ボランティアはしてあげるのではなく「させてもらう」という理念が  
ひとりひとりがつどう じく けっか きれい  
一人一人の活動の軸になっているようでした。その結果、「こんなに綺麗になるんだったら、うちも手  
つた こえ ひろ はじ ひさい どあ ひとりひとりちが  
伝って」という声が始まりました。被災の度合いは一人一人違いますので、これから「段  
階的で幅広い個別的なケアも求められてくるはずです。

げんち い なに ひと ちから つうかん ひさい かた じりつせいかつ  
現地に行き、何をするにも人の力だということを痛感してきました。被災された方の自立生活にむ  
かサポートを、おお かがた いっしょ かんが けいぞくてき とく おも  
かサポートを、多くの方々と一緒に考え、できることを継続的に取り組んでいきたいと思ひます。